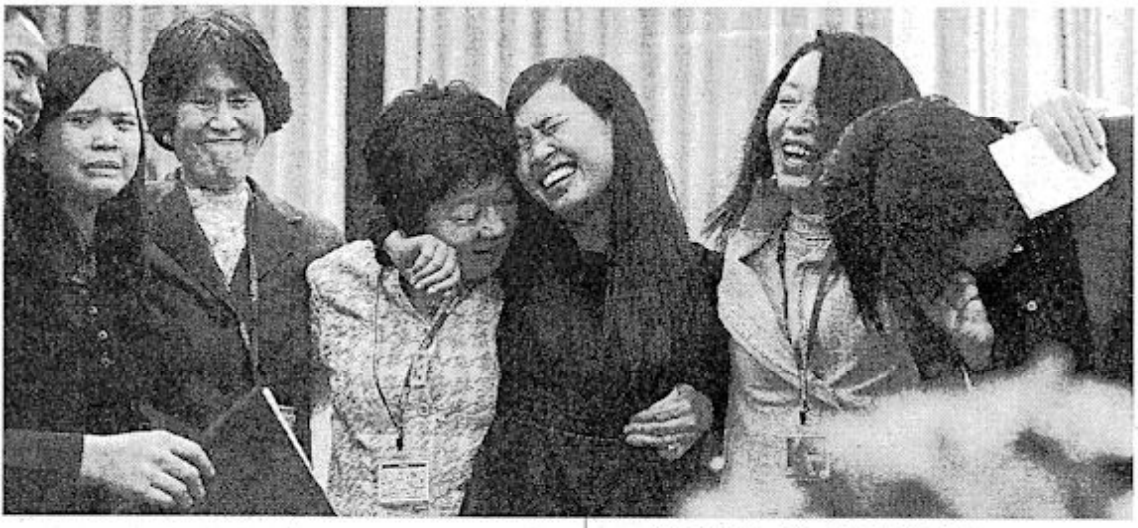
朝日新聞
2009年（平成21年）
1月28日
水曜日



修了式で指導教官や仲間たちとの別れを惜しむインドネシア人研修生たち＝27日午後、横浜市金沢区、遠藤真梨撮影

日本語覚えた 介護の道へ踏み出した

インドネシアの101人

日本とインドネシアとの経済連携協定（EPA）に基づき、昨年8月に来日したインドネシア人の介護福祉士候補101人が27日、半年間の日本語研修の修了式に臨んだ。28日に勤務先の福祉施設に移り、補助的な仕事をしながら勉強して、3年後の国家試験合格を目指す。

候補者たちは、横浜と大阪の施設に分かれて研修を受けてきた。この日、横浜市の海外技術者研修協会横浜研修センターでは45人が式典に臨んだ。候補者を代表して、エカさん(23)が「（日本語が）最初は何も読めず、書けなかったが、今はだいぶわかるようになった。これから一生懸命、明るく元気に働きたい」と日本語であいさつした。

101人は、29日から全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など51カ所で働き始める。候補者たちは国家試験の受験に必要な3年の実務経験を積み、2012年の試験の合格を目指す。合格すれば国内で働き続けられるが、不合格なら帰国しなければならない。介護福祉士候補とともに来日し、同様に日本語研修を受けている看護師候補104人は、2月12日に勤務先に移る予定だ。（生田大介）